

ひめじ創生SDGs深掘りフォロー会議

A班【健康・福祉】

働く人がターゲット。
働き方改革が進む一方で育児休業が取りにくい、サービス残業や持ち帰り残業が増えるなど、多くのストレスを抱えている。家事を手伝うなどの直接的な支援はもちろん、労働環境の改善を選挙公約に掲げる党や人に投票するような間接的な支援をしたい。
SDGsの「働きがいも経済成長も」の目標達成を目指す。



B班【健康・福祉】

独居老人を救いたい。
核家族が進み若者が都会へ流出し、地方の高齢化が問題。「独居老人がどこに住んでいるか」「健康状態はどうか」などを地域で把握しやすい環境を整える必要がある。
学校の食堂を開放して招待すれば、食事と同時に交流の場も提供できる。SDGsの「すべての人に健康と福祉を」などの目標達成を視野に。



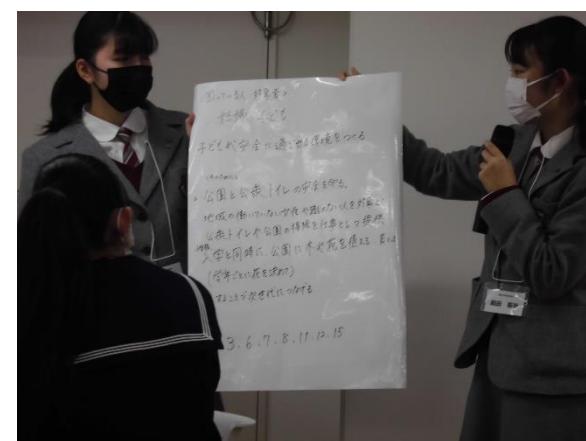
C班【環境（ゴミ対策など）】

プラスチックごみを食べて死ぬウミガメの映像をテレビで見た。人間が捨てるゴミが増えれば、海や川の生物が生きにくくなる。家島では大人が海に潜ってゴミ掃除をする地域活動があり、SDGsの「海の豊かさを守ろう」の目標を達成するため世界に広めたい。
ポイ捨て対策として、ごみを集めるロボットを走らせる案を考えた。



D班【環境（自然環境）】

テーマは、子どもが安全に過ごせる環境づくり。
不衛生な公衆トイレが多いので、地域の母親らに清掃業務を依頼してみる。
小学1年生が公園に木や花を植えて育てる活動も考えた。世代を超えて姫路の文化にし、SNSで全国にも広めたい。
「安全な水とトイレを世界中に」などSDGs17の目標の半分にあてはまる案。



ひめじ創生SDGs深掘りフォロー会議

E班【環境（自然環境）】

問題視したのが不法投棄で、捨てたくなるようなごみ箱を設置するアイデアを考えた。あふれそうになるとそれ以上捨てられない、ポイントがたまる、音や光が出る—など。私たちができることは、その音源を集めたり、ごみ箱のデザインを考えたり。

「住み続けられるまちづくりを」などSDGsの多くの目標が達成できる。



F班【教育】

教員を退職するなどした高齢者がターゲット。SDGsについて知らない子ども向けに、再生紙などで紙芝居を手作りする。学校に出前授業して紙芝居を披露したり、プレゼントをしたりして交流すれば、退職教員らはやりがいを感じ子どもたちもSDGsを学べる。

SDGsの「すべての人に健康と福祉を」などの目標にあてはまる。



G班【まちづくり】

地方は交通アクセスが悪く住みづらいので、人が都市部に流れる傾向にある。そのような地域で交流を生み出す策として、イベント開催やキッチンカー誘致などを考えた。私たちは、SNS(会員制交流サイト)の発信などで積極的に関わって交流促進の提言をしたい。

SDGsの「住み続けられるまちづくりを」などの目標達成につながる。



H班【産業復興】

ターゲットの一つ目は、コロナ禍で低迷する飲食業界。宅配サービスを注文した客が、商品をアレンジしてSNSで提案する。客が自ら関わっていく中で新たな価値を創造できるよさがある。

二つ目は、継承者が減少する伝統産業にイベントなどを通じて触れる機会を増やす。いずれもSDGsの「働きがいも経済成長も」の目標などが達成できる。



ひめじ創生SDGs深掘りフォロー会議

I 班【産業復興】

体が不自由な人や子育て中の人などがターゲットで、SDGsの「すべての人に健康と福祉を」の目標を達成したい。私たちができることは未来に向けての提案。太陽光や風力発電で自動運転できる乗り物が開発されれば、SDGsの「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」などの目標も達成できる。子どもや高齢者も乗れるオートバイもあれば良い。

